

ソフトウェアエージェントとその応用論文特集の発行にあたって

ソフトウェアエージェントとその応用論文特集編集委員会

委員長 北村 泰彦



PC, 携帯電話, PDA, ICチップ, 各種センサといった様々な端末や機器が開発され, それらを相互に結び付ける情報通信基盤が整備された現在, その上で知的な協調の情報処理を行うソフトウェアエージェントへの期待はますます高まっている。従来の人工知能は一人の人間を模倣する知的システムの実現を目的としていたが, 現在ではその人間を取り巻く環境や人間同士の関係を考慮することは不可欠である。自律的に相互作用を行いながら知的な問題解決を図ることを目的とするエージェントは, いまや人工知能の代名詞といってもよいかもしれない。

本会人工知能と知識処理研究会は, これまでもエージェント技術を主要な研究テーマとして掲げ, 基礎的な技術課題だけでなく, 様々な応用分野を模索しながら研究会活動を行ってきた。1997年と2000年には「ソフトウェアエージェントとその応用」シンポジウムを開催し, 更にそれに連動した論文誌特集号を企画してきた [1] ~ [3]。

2002年からは日本ソフトウェア科学会「マルチエージェントと協調計算」研究会が主催する「マルチエージェントと協調計算ワークショップ」と合同で, 「合同エージェントワークショップ&シンポジウムJAWS」を立ち上げた。翌2003年からは情報処理学会「知能と複雑系」研究会, 人工知能学会「知識ベースシステム」研究会が更に加わり, 日本の情報系主要4学会の人工知能関連研究会が連携するエージェント技術に関する最も中心的な会議の場となった。JAWSは毎回論文特集号と連動しており, これまで本会 [4],

[5], [7], [8], 人工知能学会 [6], 情報処理学会 [9] が担当して, それぞれ特集号を発行している。

本特集は2006年10月に鈴鹿サーキットホテルで開催されたJAWS2006と連動するものである。これまでに企画された特集にならない, JAWSの約1か月後に論文投稿を募っている。これはJAWSでの発表に対するコメントを論文に反映できるようにすることと, JAWSでの発表論文以外にも広く受け付けるためである。最終的に, 和文誌に46編, 英文誌に15編の論文投稿があり, 厳正なる査読の結果, 和文誌には18編, 英文誌には4編の論文が採択された。和文誌の分野別内訳は以下のとおりである。

モデル/理論 7編

モバイル/ユビキタス/P2P 4編

エージェントベースシミュレーション 7編

今回の特徴としてはエージェントベースシミュレーション関係の論文が多数採録されており, 日本においてはこの分野の研究が活発になっていることがうかがえる。本特集によって, 日本のエージェント研究の最新の成果を知ることができ, 更にこの分野の発展につながることを期待したい。

本特集の編集にあたっては多くの方々からの御支援を頂いた。特集編集委員の方々, 査読者の方々には深く感謝の意を表したい。特に, JAWS2006のプログラム委員の方々には本特集で査読を引き続いてお願いし, タイムなスケジュールの中, 積極的に御協力を頂いた。この場を借りて御礼を申し上げる。

文 献

- [1] ソフトウェアエージェントとその応用論文特集, 信学論 (D-I), vol. J81-D-I, no. 5, May 1998.
- [2] ソフトウェアエージェントとその応用論文特集, 信学論 (D-I), vol. J84-D-I, no. 8, Aug. 2001.
- [3] Special Issue on Software Agent and Its Applications, IEICE Trans. Inf. & Syst., vol. E84-D, no. 8, Aug. 2001.
- [4] ソフトウェアエージェントとその応用論文特集, 信学論 (D-I), vol. J86-D-I, no. 8, Aug. 2003.
- [5] Special Issue on Software Agent and Its Applications, IEICE Trans. Inf. & Syst., vol. E86-D, no. 8, Aug. 2003.
- [6] 論文特集: エージェント, 人工知能誌, vol. 19, no. 4, 2004.
- [7] ソフトウェアエージェントとその応用論文特集, 信学論 (D-I), vol. J88-D-I, no. 9, Sept. 2005.
- [8] Special Section on Software Agent and Its Applications, IEICE Trans. Inf. & Syst., vol. E88-D, no. 9, Sept. 2005.
- [9] 特集: マルチエージェントの理論と応用, 情処学論, vol. 47, no. 5, 2006.

北村 泰彦 (正員) 1983阪大・基礎工・情報工学卒. 1988同大大学院博士課程了. 工博. 1988大阪市立大学工学部電気工学科助手. 同情報工学科助教授を経て, 現在, 関西学院大学理工学部情報科学科教授. マルチエージェントシステム, ヒューリスティック探索, WWW情報統合の研究に従事. IEEE, AAAI, ACM, 人工知能学会, 情報処理学会, ソフトウェア科学会等各会員. 2001人工知能学会全国大会優秀論文賞, CIA-02 System Innovation Award受賞.

ソフトウェアエージェントとその応用論文特集編集委員会

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 委 員 長 | 北 村 泰 彦 |
| 幹 事 | 藤 田 悟 ・ 松 本 一 則 |
| 委 員 | 大 須 賀 昭 彦 ・ 新 谷 虎 松 ・ 栗 原 聡 ・ 伊 藤 孝 行 |